

滝川市都市計画マスタープラン（全体構想）素案（案）

都市計画マスタープランの目的等

都市計画マスタープランの目的と役割

土地の使い方、建物の建て方、道路や公園の配置などについて、**将来のあり方や考え方を定める計画**です。滝川市の現状と今後の展望をふまえて、**都市づくりの将来像と基本方針を具体的に定め、市民主体の都市づくりの指針として示す**ため、都市計画マスタープランを策定します。

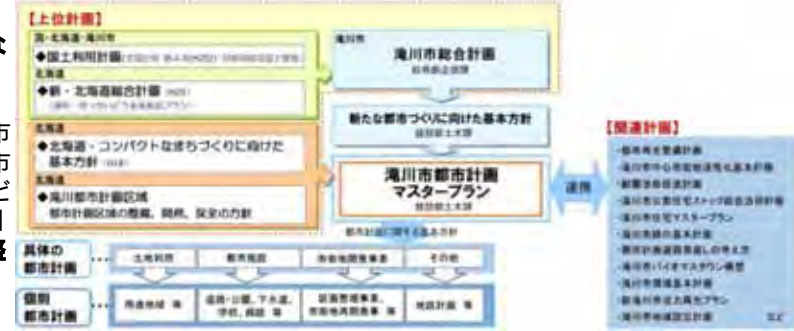
- ・市民のニーズをふまえて都市の将来像を明示
- ・道路、公園など都市計画の決定・変更の指針
- ・都市の将来像と個別の都市計画の整合性を確保
- ・住民の都市づくりの指針

計画の対象期間

この計画は、20年後を目標とした都市の将来像、基本方針を定めます。ただし、社会経済状況の大きな変動などに柔軟に対応するため、必要に応じて概ね10年後において計画の見直しを行います。そのため、**本計画の計画期間を平成23年から平成42年と定め、平成32年をめどとして必要に応じて施策の見直し**を行います。

計画の位置付け

この計画は、**市町村の都市計画に関する基本的な方針**として位置づけられます。また、国・北海道・滝川市の総合計画や北海道の都市づくりに関する方針などの**上位計画に基づき**、滝川市の**他分野の関連計画と整合**を図ります。



都市計画マスタープランの基本方針

都市づくりは大きく方向転換します

都市が拡大すると、維持管理費の負担が増大します。行政のみで進めると、住民の満足度が向上しません。

今後の滝川市の都市づくりは以下の方針で行います

基本理念 市民が創る「北のエコ・コンパクトシティ たきかわ」

(1) コンパクトシティの実現

道路軸等への都市機能の集約により市民の暮らしやすさを向上・持続するとともに、交通利便性を活かして地域活力を創出し、滝川市の地域特性に応じたコンパクトな都市の形成を目指します。

(2) エコシティの実現

地域資源である豊かな自然環境、農村環境を守りつつ、河川に囲まれた特徴ある自然環境や市街地を取り巻く豊かな農村環境と密接に結びついた都市づくりを進めます。また、公共交通の利便性促進、自転車利用の促進、エコカーの導入促進、既存施設等の資源の有効活用などにより、地球環境にやさしい低炭素型都市の形成を目指します。

(3) 市民が創る都市の実現

市民が主体となり、市民が暮らしやすい、満足できる、住み続けたい都市づくりを進めていきます。

基本目標

基本目標 1 高齢者 障がい者 子どもなど みんなが暮らしやすい都市づくり

コンパクトで利便性の高い都市構造、ゆとりがあり快適に暮らせる居住環境、安心で安全に暮らせる都市、多様なニーズに対応できる都市を目指し、少子高齢社会において、高齢者、障がい者、子どもなど、みんなが暮らしやすい都市づくりを実現します。

基本目標 2 既存ストックを活かした活力ある都市づくり

既存都市基盤の維持・活用を図りながら、都市機能の集約化を進め、中空知圏の中心都市としての役割を強化し、また、交通利便性を活かしてさらなる都市の活力を創出することにより、既存ストックを活かした活力ある都市づくりを実現します。

基本目標 3 豊かな環境を守る・活かす都市づくり

重要な地域資源である豊かな自然環境、農村景観を保全し、また、石狩川、空知川の自然環境と密接に結びついた都市づくりをすすめるとともに、環境を活かして健康に暮らせる都市づくり、地球環境にやさしい都市づくりを目指し、豊かな環境を守る・活かす都市づくりを実現します。

～ 拡大から集積へ ～

市街地を拡大する都市づくりから、都市基盤施設などの既存ストックを有効に活用し、拡散してきた都市機能の集積を図り、環境負荷を低減する都市づくり **エコ・コンパクトシティ**への方向転換が必要です。

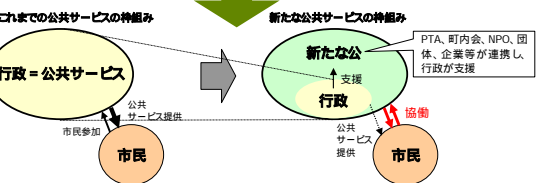
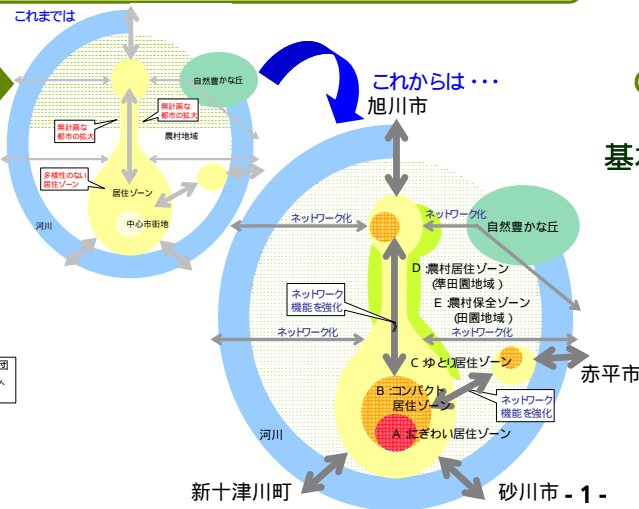
～ 行政主体からコミュニティ主体へ ～

行政による基盤整備を主体とした都市づくりから、公共施設などの既存ストックを活かし、住民が主体となって一人一人の生活に重点を置いた **コミュニティを核とした都市づくり**へと新たな展開を図ります。

新たな都市づくりは、以下の考え方をポイントとします

画一的・拡大志向の都市づくりではなく、地球環境や地域環境に配慮しながら、**市民の暮らしやすさに視点を置いて、多様なライフステージに応じて市民が選択**できる「エコ・コンパクトシティ」へと再生を図っていきます。

地域活性化、高齢者福祉、生活支援、住民防災などの分野で、**市民・NPO等 行政の協働による新たな公**により、多様なコミュニティ構成員のニーズに応える、**新たな枠組みのもとで都市づくり**を試行的に進めていきます。



滝川市の将来都市構造

滝川市が今後目指すまちづくりに向けて将来都市構造の考え方を明らかにし、都市の構成要素であるゾーン・拠点・軸の視点から将来都市構造の設定を行います。

土地利用

- ・既存エリアに加え、道路交通網を活かして商業・工業を配置します。
- ・都市幹線（環状）沿線外住宅地の低密度化を図ります。
- ・準田園、田園地域における農地を保全します。
- ・滝川市街地の都市幹線、江部乙市街地、東滝川市街地にコンパクト化を図る都市構造とします。



コミュニティ街区構造

滝川市が今後目指す都市の構成として、コミュニティを軸とした考え方を示したコミュニティ街区構造の設定を行います。

コミュニティ街区

- ・小学校区を基準として設定します。
現時点の小学校区を基準として設定しますが、今後の学校の適正配置の検討により必要に応じて見直しを行います。

コミュニティ拠点

- ・原則として、小学校区を含むエリアを設定し、その周辺に地域活動の拠点施設等を集約します。

拠点間ネットワーク

- ・主要幹線道路、都市幹線道路を基準として、公共交通を基準としたネットワーク形成します。

コミュニティ軸

- ・コミュニティ拠点を通過する都市幹線街路について、コミュニティ活動を活発に行う軸として位置づけます。

コミュニティ街区内の拠点とのアクセス

- ・各住民の住居がコミュニティ拠点にアクセスしやすいネットワークを形成します。

